

事業を始めることができました。主なものとして、①評議員会の定例化、②三役会の新設と定例開催及び常任委員会の廃止、③本学同窓会との連携、④総会開催日の7月第3日曜日（海の日の前日）への変更、⑤総会での各期持ち回りの記念講演会の新設、⑥総会での記念シンポジウムの開催、⑦総会での卒後10周年と20周年記念同期会の新設、⑦個人情報保護法施行による諸問題の弁護士との協議、⑧会計処理に関して税理士への依頼、⑨「医師賠償責任保険」と「所得補償保険」の事業開始、⑩1期生から10期生までの中から選ばれた各期1名計10名の委員による「同窓会役員選考委員会」の新設と同委員会の提言書による次期役員選考・推薦が挙げられます。

5. 今後の課題

私たちの同窓会にとって一番大切なことは、知的職業集団として、国民、特に沖縄県民のために質の高い医療を提供していくことであり、そのために医学部、大学、大学同窓会、沖縄県医師会、沖縄県等の関係諸団体に対して、利益団体として影響力を強めることであると思います。次に、会員相互の親睦と広い意味での福利厚生を提供する

ことです。

これらを実現するためにも、①総会・評議員会への出席者の増加、②年会費収入を増やすことによる財政基盤の安定化、③東北、中部、中国、四国支部の新設、④代表者の定めのある権利能力なき社団から一般社団法人化への移行、⑤同窓会事務室の医学部内への移転、等が必要であると思います。そして何よりも設立20年を迎えた我が同窓会に大切なことは、医学部に教授を輩出していくことだと思います。

6. 会員の皆様へ

5期10年を振り返り、自己評価をするならば、停滞の10年と言わざるを得ません。特に優秀な人材が副会長、会計として補佐し、長期間同窓会を率いたにも関わらず、医学科の教授を一人も輩出することができなかった会長としての責任は重く、総会でもお話しした通り、今回この責を取って退任いたしました。

今後は、蔵下新会長を中心とする新執行部が若い力で同窓会を運営していきます。今後も医学科同窓会の発展にご協力をいただきますことを切にお願いして、会長退任の挨拶といたします。

病院長退任に当たって

琉球大学大学院医学研究科放射線診断治療学講座 教授 村山 貞之



同窓会の皆さん、昨年12月に病院長を退任しました村山です。2年9ヶ月間でしたが、同窓生の方々には、ご支援いただき有り難うございました。

さて、この同窓会誌の病院長就任挨拶に何を書いていたのかなと紐解いてみましたところ、病院経営のこと、琉大病院に建設予定であったさまざまな施設のことがメインでした。病院経営については、特に収支を改善させることの難しさを痛感した3年間でありました。実は、収益はさらに上がって160億までの水揚げを得られるまでになりましたが、支出も同じぐらい多く、不採算な医療も携わらなければならないことと、また最新の医療を提供するための設備投資が必要である大学病院の使命、宿命を今さらながら実感いたしました。

ともあれ、卒後研修センターと血液浄化センターの施設、臨床研修のためのクリニカル・シ

ミュレーションセンター、サイクロトロン・PET-CTによる機能画像診断センター、大動脈ステント治療に有効な血管造影室と手術室が合体した形の沖縄県では初のハイブリッド手術室など、就任前から準備されていた施設は無事建設され、稼働を始めております。

手狭で旧態然とした現在の病院の再開発の準備にも心血を注いでいましたが、このほど、西普天間への新築移転の話も出てきており、琉球大学医学、附属病院に輝かしい未来が見えてきたと感じております。県外の同窓生の皆さんも、発展していく琉大病院に是非注目していただきたいと思います。

私は現在教室の教授に戻り、しばらく手抜きになっていた教室・放射線部の運営と学会活動に重点を置く日々を送っております。微力ではありますが、今後も医学研究科、医学部、琉大病院のために尽くす所存でありますので、ご指導の程、お願いいたします。